

◆夢を育み 明日が待たれる 魅力ある学校づくり◆

# 北教だより

茨城県県北教育事務所  
令和8年10月1日(木)  
第9号  
電話 0294-34-0774  
E-mail:hokukyo@pref.ibaraki.lg.jp

## 人権尊重の視点に立った学校づくりを

学校における人権教育の目標は、「一人一人の児童生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、**[自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること]**ができるようになり、それが、様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動ができるようにすること」※です。この目標を実現するためには、一人一人が大切にされていると感じられる授業や活動を行うことが大切です。

特に、互いのよさや可能性を認め合い、それぞれが自分の力を発揮できる環境をつくることが重要です。また、児童生徒の発達段階に応じた指導を行うとともに、教職員自身が互いを尊重する姿勢を示すことも大切です。日々の教職員の言葉や態度は、児童生徒の人権感覚を育てる大きな要素となります。**「自分は大切にされている」という実感は、「相手も大切にしよう」という思いにつながります。**教職員一人一人が人権尊重の視点を大切にし、誰もが安心して学校生活を送ることのできる学校づくりをめざしていきましょう。

※「人権教育の指導方法等の在り方について〔第3次とりまとめ〕」より

## みんなえがお 人権教育指導資料(第48集)の活用を

令和8年3月に発行された第48集には、「**人権感覚を身に付けるための研修**」や「**様々な人権課題を正しく理解するための研修**」など、11の研修事例が掲載されています。研修事例6では、「授業場面で配慮したい教師の言動セルフチェックシート」を活用した研修を、研修事例10では、インターネット上の人権侵害について考え、「正しい情報モラルを身に付ける」ための研修資料が掲載されています。

現在、いじめや子どもへの虐待、インターネット上の人権侵害、障害を理由とする偏見や差別など、様々な人権問題が起きています。こうした問題を未然に防ぎ、互いの人権を尊重できる学校づくりを進めるためには、教職員一人一人が人権尊重の視点を大切にすることが重要です。本指導資料を校内研修や日々の指導に役立て、教職員の人権感覚を高めるとともに、児童生徒の人権感覚を育む取組につなげていきましょう。



## 「アンコンシャス・バイアス」を知っていますか？

「アンコンシャス・バイアス」という言葉を知っていますか？「アンコンシャス・バイアス」とは、**誰もがもっている、無意識の「思い込み」や「決めつけ」**のことです。例えば、「白バイ隊員は男性」「巡査長は若い人」「子育て中の女性に出張のある仕事はかわいそう」など、知らず知らずのうちに、性別や年齢、立場などによって相手を決めつけてしまうことがあります。こうした思い込みは、誰にでも起こり得るものです。しかし、何気ない言葉や行動が、相手を傷つけたり、その人の可能性を狭めたりすることがあります。まずは、**「自分にも思い込みがあるかもしれない」**と気付くことが大切です。アンコンシャス・バイアスについて、詳しくは右指導資料に掲載しています。ぜひ、ご活用ください。

※この資料は茨城県教育研究会人権教育研究部のWebページからダウンロードできます。

